

# 台風18号の接近に伴う被害防止対策について

気象災害対策H29-4  
平成29年 9月15日  
農林総合研究センター

## I 被害防止対策

詳しい台風情報、解説は最終ページ

台風第18号は、14日9時には東シナ海にあって、1時間におよそ15キロの速さで北北西に進んでいます。

今後、九州地方に接近・上陸し、石川県へは9月17(日)～18日(月・祝)に最接近する進路予想となっています。

農林総合事務所においては、気象情報に十分注意し、台風の進路に応じた対策を的確に実施できるよう指導の徹底を図ってください。

### 〈要旨〉

- 1 水稲では、収穫期となっているほ場は、できるだけ刈り取り作業を進める。また、倒伏したほ場では、穂発芽等による品質低下を防ぐため、排水に努める。
- 2 大豆では、降雨では場が長時間冠水した場合、根腐れを起こすので、事前に排水溝を点検・整備しておく。
- 3 野菜、花き等では、大雨に備えて圃場の排水対策に努める。露地のなすでは早めの収穫、ネギでは倒伏防止策を実施する。園芸施設では、施設内に風が吹き込まないように、ハウスバンド等を点検する。
- 4 野菜や花き等の園芸施設では、施設内に風が吹き込まないように、サイドのフィルムを張り、破損箇所は速やかに補修し、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなど点検・整備する。
- 5 収穫期に入っている園芸作物では、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。
- 6 棚栽培の果樹では、風圧による棚の上下動によって落果が起きるので、支柱・アンカー等で棚面を固定する。

### 〈詳細〉

## II 農作物の被害防止対策

### 1 水稲

晩植栽培や直播栽培で収穫期となっている圃場は、できるだけ刈り取り作業を進める。また、倒伏した圃場で穂発芽等による品質低下を防ぐため、排水に努める。

## 2 大豆

### (1) 事前対策

事前に排水溝を点検・整備しておく。

### (2) 事後対策

- ① 降雨では場が長時間冠水した場合、根腐れを起こすので、台風通過後は速やかな排水に努める。
- ② 降雨を伴った強風により莢腐敗の発生が懸念される場合は、薬剤防除を実施する。
- ③ 収穫にあたり、圃場によって着色粒や腐敗粒などの品質低下が見られる場合は、分別して収穫・調製を行なう。

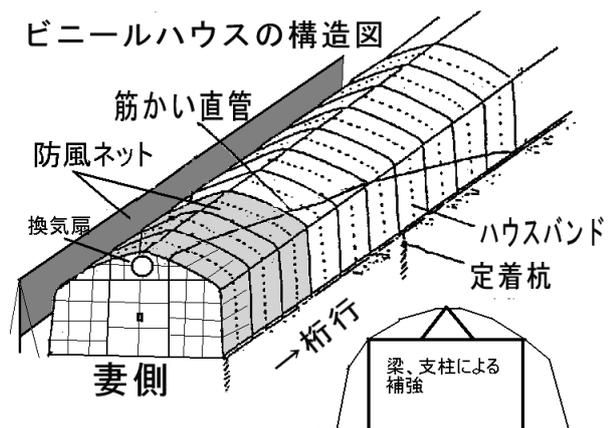
## 3 野菜・花き

### (1) 事前対策

園芸施設（トマト、きゅうり、メロン、軟弱野菜、ストック、葉ぼたん等）

- ① ハウス周囲の排水溝を整備し、施設内への浸水を防ぐ。
- ② 施設内に雨風が吹き込まないように、サイドのフィルムを張り、破損カ所は速やかに補修したり、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなど点検・整備を早急を実施する。
- ③ 暴風時のフィルムやパイプの浮き上がりを防ぐため、ハウス本体の直管と別に桁行直管にハウスバンドを張り、フィルムを固定する。

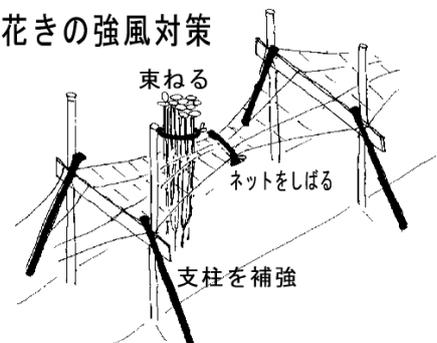
ビニールハウスの構造図



露地立体栽培（なす、まるいも、きく等）

- ④ 圃場の排水溝を点検し、大雨時の冠水に備える。
- ⑤ なすなどの果菜類では、収穫可能な大きさのものは早急に収穫する。
- ⑥ 筋かいや直管で棚を相互に連結し、また周囲杭等と棚を固定し、棚全体を補強する。
- ⑦ きくなど立体栽培の花きは、鋼管支柱を3～5m毎に打ち込み、ネットを補強する。さらに、うねの中央に数m置きに支柱を立て、支柱を中心にネットを絞り込み、茎葉を固定する。

花きの強風対策



露地地這栽培（ねぎ、だいこん、にんじん、さつまいも、ブロッコリーなど）

- ⑧ 圃場の排水溝を点検し、大雨時の冠水に備える。
- ⑨ だいこん、ブロッコリー等で幼苗期のものは、風雨での損傷を防止するために、寒冷紗などのべたがけを実施する。
- ⑩ ねぎはパイプ支柱を1.8m間隔に立て、2本のハウスバンドで挟み込むように連結結束し、横ゆれを防止し、葉の損傷や倒伏を抑制する。

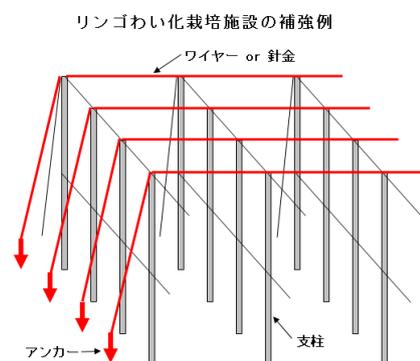
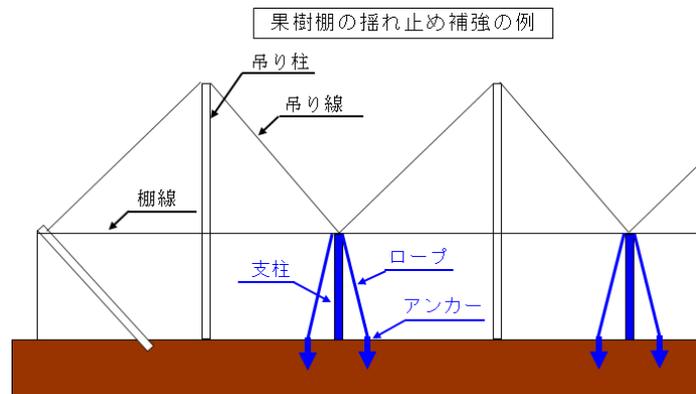
## （2）事後対策

- ① 豪雨により圃場が冠水した場合は、3時間以内ではほとんど悪影響はないが、3時間を超えると高温によるむれや、根腐れによる被害が発生しやすくなるため、直ちに表面排水に努める。
- ② 砂丘畑等では強風や飛砂で茎葉が傷んだ場合は、通過後直ちに速効性肥料で追肥する。また、茎葉が風雨でもまれた場合は、病害が発生しやすいので、殺菌剤による予防を行う。
- ③ 花きでは風で茎が斜めになった場合は、台風通過後2～3時間以内にネットを起し元に戻す。特に露地ぎくでは起こすのが遅れると茎の曲がり定着して、元に戻らなくなるので注意する。
- ④ 花木・枝物の枝折れに対しては、枝の裂け等損傷の無い部分まで切りもどす。

## 4 果樹

### （1）事前対策

- ① 収穫期に入っているなし、りんご等では、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。
- ② 防風施設は支柱を点検し、ネットの破れ等は補修し架線にしっかり固定する。
- ③ 棚栽培での果実の落果のほとんどが、風圧による棚の上下動が原因であるため、必要に応じて支柱・アンカー等で棚面を補強し、揺れを抑える。
- ④ なし、キウイフルーツ、いちじく等の新梢は折れやすいので、被害を軽減するため、新梢を棚面や支柱等に固定する。特に、いちじくでは、葉擦れが原因でサビ果が発生するので、新梢が揺れないようしっかりと固定する。
- ⑤ りんごの普通栽培やかきでは、枝の揺れによる落果を防止するため、枝の結束や支柱立てを行う。特に、果実の多い枝は、抵抗が大きく揺れやすいので注意して行う。
- ⑥ りんごのわい化栽培では、支柱の上部をワイヤー等で連結し補強する。
- ⑦ ぶどうの収穫が終了した園は、速やかにビニールをはずす。また、防鳥網、



防風ネットは風で飛ばされないようしっかり固定する。

- ⑧ 高接ぎ更新などの接ぎ木部分は風に弱いため、支柱を添えて必ず補強する。また、以前に裂けた枝、裂ける危険のある個所についても補強が必要である。
- ⑨ 大雨を伴う場合は、排水溝を設置するなど園内の排水対策を行う。
- ⑩ 事後対策のための資材等を予め準備しておく（薬剤、補修資材等）。

## （2）事後対策

- ① 台風で打ち身やすり傷を負った果実は、軟化、腐敗や落果が懸念される。収穫可能な果実は直ちに収穫し、食用、加工用、飼料用、廃棄するものに分別し、処分する。また、落下果実は直ちに園外へ持ち出す。
- ② ビニールハウス、果樹棚、支柱等の施設の被害は早急に補修する。
- ③ 倒伏樹は速やかに起こし、支柱で固定する。太根の切断が著しい場合は、その程度に応じて地上部を切りつめる。
- ④ 枝裂けは状態に応じて傷害部を削り取り、塗布剤で処理する。
- ⑤ 落葉被害を受けた場合は、被害程度に応じて摘果を行い、果実品質維持と樹体の回復を図る。
- ⑥ 強風で葉や新梢が傷ついた場合、使用基準に基づき保護と防除を兼ねて速やかに殺菌剤を散布する。
- ⑦ 長時間、雨水が滞水しないよう排水対策を講じる。

## 5 畜産

### （1）事前対策

- ① 畜舎内に風が吹き込まないように、窓、戸等の破損箇所は速やかに補修する。
- ② 暴風時は畜舎を密閉し、換気扇を稼働させて換気を行う。
- ③ 畜舎への雨水の進入を防ぎ、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。
- ④ 停電によって搾乳ラインやバルククーラーが止まることが予想されるので、緊急時の発電機の確保を検討しておく。

### （2）事後対策

- ① 畜舎の再点検を行い被害箇所の修理を行う。
- ② 畜舎への浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に、搾乳機器は故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

## 6 飼料作物

### （1）事前対策

- ① ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールは、網をかけるなど強風による破損を防止する。

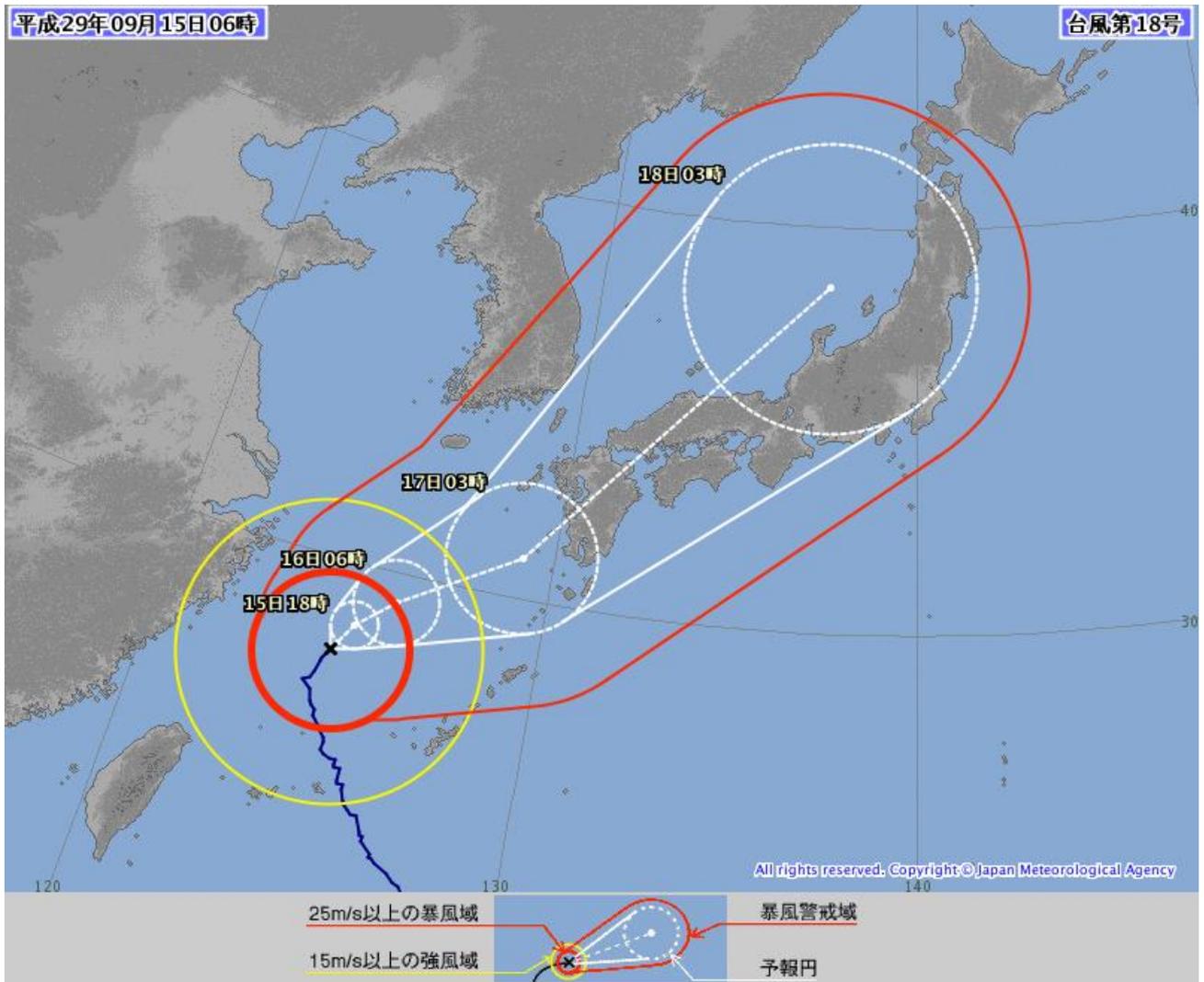
### （2）事後対策

- ① 刈取り適期の牧草やスーダングラスは、天候をみて早急に刈取りする（倒伏したものは速やかに収穫し、品質の低下を防ぐ）。
- ② 飼料用とうもろこしは、倒伏の傾きが45度以下なら生育に支障がないので

生育期間を確保する。地際まで倒伏した場合は、熟度が進んだものほど回復が小さいので、折損により回復が見込めないものを優先して、熟度に応じて収穫時期を決定する。

- ③ ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールに破損箇所があれば、再度ラッピングするなり、テープを貼るなどサイロの気密性の確保に努める。

### Ⅲ 気象の概況 台風の進路予想



＜15日06時の実況＞	
大きさ	-
強さ	非常に強い
存在地域	久米島の北西約270km
中心位置	北緯 27度 55分(27.9度) 東経 124度 40分(124.7度)
進行方向、速さ	北北東 ゆっくり
中心気圧	935hPa
中心付近の最大風速	50m/s(95kt)
最大瞬間風速	70m/s(135kt)
25m/s以上の暴風域	全域 200km(110NM)
15m/s以上の強風域	全域 390km(210NM)

